

Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022～2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー  
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン  
ロータリー

会長 高 畠 裕  
幹事 車 田 裕 介



2022～23年度国際ロータリーテーマ

## 第1727回例会

令和4年9月15日(12:30～13:30)

○ソング

- 我等の生業

○ビジター

白河市文化振興課 課長 小峰由紀子様

白河市文化振興課 主任主査 根本幸子様

○スマイルBOX

●高畠裕会長（白河市役所文化振興課・小峰課長様、根本主任主査様、本日はありがとうございます。遅れました事、大変申し訳ございません。佐藤会長エレクト、会長の時間の「お月見泥棒」のお話ありがとうございました。）

●佐藤幸彦会長エレクト（会長代行をさせて頂きました。白河市役所文化振興課・小峰様、本日はありがとうございます。）

●永野文雄会員（会長代行の佐藤幸彦会長エレクトさんご苦勞様でした。ゲストの市職員さん、卓話ありがとうございます。）

●成井正之会員（今週の大谷スマイルは9/12の34号1本でした。）

●金田昇会員（先日の第4班のホームミーティングは楽しく参加できました。前原班長、お世話になりました。）

●水上泰真人（遅れましたが誕生日のお祝いありがとうございました。また、先日ははじめてホームミーティングに参加させていただき楽しく過ごすことができました。諸橋さんはじめ、皆様ありがとうございました。）

●運天直人会員（先週の風とロック芋煮会、無事終了しました。一週間かかりきりでしたので顔が真っ黒になりました。決してゴルフ焼けではございません。とりあえずスマイルいたします。）

### ▶第1727回例会出席状況 (R4年9月15日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	25名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	1名
Ⓕ ②の出席者数	11名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	37名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	63
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	58.7%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

## 本日のプログラム

### ■会長の時間

佐藤幸彦会長エレクト



皆さん、こんにちは。まず、お客さんのほうを紹介させていただきたいと思えます。白河市役所文化振興課の小峰様と根本様でございます。後程、お話をいただければと思えますので、また、詳しいご紹介のほうは後程藤田会員のほうからよろしくお願ひしたいと思えます。高島会長、今日議会中ということで、今終わったということでこっちに向かっている最中だということなので、私が代行させていただきたいと思えます。詳しい報告等は車田幹事のほうからあると思えますので、他愛もない話をさせていただきたいんですが、先日の中秋の名月ご覧になったでしょうか。旧暦の8月15日を中秋と言うらしいですが、その名月でたまたま今年は満月でございます。去年も満月であったわけでございますが、2年続けて満月が続くというのは非常に珍しくて、来年の中秋の名月は満月ではないそうでございます。その中で中秋の名月ご覧になった方も多いかと思うんですが、団子とススキを飾るという風習やってる地域がまだいらっしゃるかと思うんですが、これはお米の収穫、感謝、また次年度の豊作を祈願してのことでございます。その中で私、毎年思い出すのが皆さんお月見泥棒ってやったことありますか。団子突っつきとか団子かっぱらいとかって、ちょっと言葉悪いですね。言うんですが、この風習があるのは日本でも20か所程度しか今ないそうでございます。全国的でやってるのかなと思ったら、小さい頃、人の家に行って軒先に団子がピラミッドのように飾ってあるんですね。それを棒の先に釘とかくっつけて、それをかっぱらってくるわけですね。それはかっぱらってくるという言葉が悪いですね、いただいってくるわけでありまして。これは一年に一回公認されている、その盗まれるほうもいいですよという意味でやっている行事、風習でございました。何故それが許されてるかということ、子供は月の使者ということで、団子がなくなるということは月よりの使者、要するに子供たちが持っていくことでその家にも良いことがあるし、子供たちにも良いことがあるというような、いろいろなネットで調べると出てくるんですけども、一年に一回人の物を盗んでもいいよという風習があります。うちの地域には昔あったんですが、今はもうなくなってしまいました。どんどんなくなっているのが現状だと思います。その代わりに、海外にも同じような風習がございまして、皆さんもご存じの有名なハロウィンですね。トリックオアトリート。お菓子をくれないといたずらしちゃうぞという意味なんですけども、和風ハロウィンというのがどうもお月見

泥棒で、ハロウィンのトリックオアトリートが向こう版の日だけはいいいですよという言い伝え、風習だそうでございます。会長ご到着でございますので、代行はここまでということで、引き続き本当の会長の挨拶お願ひしたいと思えますので、よろしくお願ひします。

### ■会長の時間

高島裕会長



皆さん、こんにちは。遅れてきてしましまして申し訳ございません。ちょっと議会のほうが今日、常任委員会だったので西クラブは欠席で出しておきました。思ったより早く終わりましたので駆け付けました。佐藤会長エレクト、本当にありがとうございました。出口でちょっと時間調整をさせていただいて、話が終わった頃に入ろうかなと思ったんですが、せっかくネタ考えていただいたと思ったので。小峰課長さん、そして根本主任主査さん、本日はようこそおいでくださいました。お忙しい中、ありがとうございます。本日お二人には、白河市で開催されておりますビエンナーレ「風月の芸術祭in白河」を宣伝し、また文化振興係として今後どのようなことがあるかなども含めてお話をいただいとすることで、大変楽しみにしております。また、先週ですがズームにて財団のセミナーを受けさせていただきました。中目財団委員長さん、そして金田パスト会長さん、そういった方々と一緒に受けさせていただきました。ありがとうございます。ということで、大変ためになる内容でございました。こういった内容は、タイムリーに皆さんのほうに伝えられるように、今後例会のほうも展開していきたいと思えます。会員の方から入ったはいいが、なかなか何をやっていいのか、どうすればいいのかということがわからないというお話もいただいておりますので、その辺も含めてわかりやすく、そして仕上げとしてロータリー情報委員会の先輩方に詳しくその内容を詰めていただくような例会も開催する予定でございまして、どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。また、ご案内行っているとおり、米沢中央さんとの合同例会、ゴルフコンペもありますので、奮ってご参加をいただければと思えます。また、今皆さんの中ではホームミーティングの開催でやっていただいとと思えますが、忌憚のない意見を報告会のほうで発表していただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思えます。なかなか佐藤会長エレクトのほうにお願ひした以上、ネタとして何も考えてきてませんでしたので、私の話もこの辺で終わりになってしまいます。この後、市役所のお二人の方々から、楽しいお話、そしてためになるお話が聞けると思えますので、どうぞ本日はよろしくお願ひしたいと思えます。

## ■幹事報告

車田裕介幹事

- 猪苗代ロータリークラブ環境保全委員IT推進委員米山委員長 佐瀬真：令和4年度漂着水草回収参加者申込み用紙添付
- 白河ロータリークラブ会長 渡辺友彦、幹事 仁平賢司：年次計画書・報告書送付について
- 米山記念奨学会事務局長 柚木裕子：ハイライトよねやま270号
- 地区事務所 芳賀美宝子：10月開催のセミナーについて
- ガバナー 佐藤正道、RLI委員長 佐藤榮朗：ロータリーリーダーシップ研究会（RLI）第5期パートⅡ開催のご案内

## ■委員会報告

## ○地区研修委員会

金田昇会員



皆さん、こんにちは。地区研修委員会に出向しております金田です。先程、幹事報告からも報告あったんですけども、10月9日にロータリーリーダーシップ研究会、RLIの開催ということでご案内が来ております。これにつきまして、一般会員の参加も自由にできるということで、締め切りがありますが是非ご参加いただきたいなと思います。内容につきましては、ロータリーとは何ぞやという基礎的なお話とか、あと今ロータリーについて思うことをディスカッションしたりする場になると思います。是非、多くの方にご参加いただいて、より質の高いクラブ運営を進めるためにやっていきたいなと思います。わたくしもしくは吉野さんのほうまでご連絡いただければよいと思いますが、多分吉野さんが旗降って参加者を連れてってくれると思いますので楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

## ■本日のプログラム

## ゲスト卓話の紹介

## ○プログラム委員長

藤田龍文委員長



皆さん、こんにちは。プログラム委員会の藤田です。本日のゲスト例会としまして、今、白河市内で開催されておりますビエンナーレの現代アート展。そちらのご紹介を担当部署である文化振興課の小峰課長と根本主査にいろいろご案内していただくという趣向の例会となります。皆さんのお手元にこの赤いパンフレットから4部資料がお手元に置いてあると思いますので、こちらをベースにしながらお話を今日は進めていただけたと思いますので。最後にいろいろ聞きたいこととか、質疑等もあればそのお時間も取るようにしますので、是非聞いてみたいことを聞いていただければと思います。

そのほか、ビエンナーレの開催中にいろいろな講演会の案内も、その4部の中に入っておりますので、そちらの出欠、興味があるなどと思った方はこちらの出席ボードを回覧しますので、こちらへ名前をご記入いただければと思います。それでは小峰さんからお話のほうよろしくお願いいたします。

## ○白河市役所文化振興課課長

小峰由紀子様



皆様、改めましてこんにちは。市役所文化振興課長の小峰と申します。先程、紹介ありましたダブルユキコのうちの一人の小峰由紀子です。どうぞよろしくお願いいたします。まず、今日ご案内させていただくのはビエンナーレ

ということなのですが、まず私共文化振興課がどのような事業をやっているかということ、まず簡単に紹介させていただきたいと思います。文化振興課ということで何をやってるんだろうという感じかと思うんですが、文化のその名前のとおり、本当に文化、芸術の振興なんです幅広くて、例えばコミネス、文化施設交流館なんです、コミネスの管理運営をはじめ、俳句賞の募集、表彰式ですとか、それから音楽の祭典という子供から大人までが一堂に会して音楽の成果を発表したり、そこを通して交流したりという事業を行っております。それから、10月には美術展覧会。市民とか近隣の方々が美術作品を応募して優秀作品に受賞していただくという美術展なんかなども行っております。そういった事業をしている文化振興課でございますが、今日のメインはビエンナーレについてのご紹介ということで、こういった貴重な時間をいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。それでは手元のほうに、こちら赤と白のリーフレットが渡っているかと思っております。ビエンナーレのリーフレットでございます。今、元町、中町、天神町の辺りを歩いていただくと、街路灯にこのようなこの赤と白のフラッグが街路灯にかかっているのをちょっと見ていただいているでしょうか。そのフラッグもこのビエンナーレの一環で、ビエンナーレの事業の中で中学生を対象に切り絵のワークショップ、だるまをモチーフにした切り絵のワークショップをしております。その中学生が作った切り絵をフラッグのほうにプリントして街路灯のほうにフラッグ付けております。元町、中町、天神町、そのフラッグが付きまして、今それからちょうどちょうちん祭りという時期も重なりました、こう町の中が何となく賑やか華やかになったかなと思ってまして、どんどん白河を盛り上げていきたいと思っているところなんです、まだまだこのビエンナーレのPR足りていないというところもあります。今日お話を聞いていただいた皆様には是非こちらのビエンナーレのほう見ていただくと同時に、お知り合いの方誘っていただき、是非鑑賞していただくと

共にPRもしていただければと思っております。では早速なんですが、そのビエンナーレビエンナーレとさっきから言っているんですが、ビエンナーレって何なんだろうということなんですが、ビエンナーレというのは2年に一度の現代アートの芸術祭のことをビエンナーレと言うようで、3年に一度ですとトリエンナーレと言うらしいです。ビエンナーレ2年に一度なんですが、ビエンナーレ、そうですね、中之条ビエンナーレとか、越後妻有トリエンナーレとか、そういった形で全国的に今、現代アートを使った芸術祭で芸術を鑑賞していただくと同時に地域振興も行いましょうということで、全国的にこういう芸術祭をやっている地域が増えてきております。白河市ですが、この2年に一度の現代アートの芸術祭開催しておりますが、この白河市でやる意義としましては、白河市にある歴史とこの歴史的資産を生かした、その歴史的資源、白河市独自のものを活用して、白河市内の歴史的建造物ですとか寺院とか商店街に有名なアーティストの方が作った現代アートの作品を展示するという含めて、鑑賞、それから体験、それから創作活動をしていただくという芸術祭になっています。風月のビエンナーレと言っているんですが、白河市で行っているそのビエンナーレのタイトルとしては、「風月の芸術祭in白河」という名前を付けて2年に一度の芸術祭をやっております。その風月の芸術祭という風月のタイトルなんですが、この表紙をめくっていただいたところに、この芸術祭は福島大学と白河市の共同事業で行っておりますが、芸術監督として福島大学の渡邊晃一教授を招きまして事業のほうを行っておりますが、「風月の芸術祭」というタイトルは、松平定信公の雅号「風月」に由来しています。その松平定信公が市民享楽の精神、それから自然を愛で、文化を享受するという心を伝えているということで、その松平定信公の雅号を使って「風月の芸術祭」というタイトルを付けてビエンナーレのほうを行っております。このビエンナーレ「風月の芸術祭in白河」を開催することとなった経緯なんですが、そもそも福島県では2004年から開催されておまして、開催当時福島大学が中心となって、まずは福島市、二本松市、喜多方市、南相馬市などを2年に一度ずつ何年かけて開催してきてまして、白河市では2年前2020年の時の第1回目として初めて開催いたしました。2年にいっぺんの芸術祭なので、今年が2回目ということになります。福島ビエンナーレ自体は2004年から始まっておりますので、今年がちょうど10回目という区切りの年になっています。前回は2年前の白河でやった第1回目の時は、ちょうどコロナ禍だったということもあって、なかなかPRして多くの方に来ていただくこともなかなかできないということもあり、主にオンラインで情報のほうを発信した芸術作品を見ていただいたという経過がありますが、今年度はコロナ禍ではありますが、感染対策を取りながら多

くの方に白河に実際に足を運んでいただいて、地域交流、地域の活性化にも繋げたいと考えております。今回の「風月の芸術祭」のテーマなんですが、祈りが前回で、今回は境(Borderless)というテーマにしております。前回の祈りというのはコロナ禍であったので、コロナの終息を祈りながらということで祈りというテーマにしましたが、今年はその表紙をめくったところの芸術監督のお話にも書いてはありますが、白河市は昔からみちのくの玄関ということの位置的な東北と関東の境に位置するという地理的なものと、それからそういった白河の関があるということで昔から歌を詠む方の憧れの地であったという白河の境という位置的なものと、また戊辰戦争においては白河の戦いで多くの犠牲者を出したわけなんですが、東西両軍のその犠牲になった方、分け隔てなく今も尚弔っているという境を超えた精神があるということと、現在そのコロナ禍において人と人が距離を取るという、ある意味境が生じているような中ではありますが、それに伴うといえますかそれとは逆と言いますか、AI技術の発達によって瞬時に世界の人と境を超えて繋がるができるという時代を迎えているということで、改めてその境ということに焦点をあててこちらの芸術祭を開催して、世界にこの白河の地で開催されている芸術祭を発信していこうというものです。それで実際今、芸術祭のほう開幕してはるんですが、開幕は先程会長エレクトの佐藤様からお話があった中秋の名月のちょうど9月10日にオープニングセレモニーを行いまして、9月10日から約1か月間、来月の10月9日までを会期としてビエンナーレ「風月の芸術祭」のほうを開催しております。会場なんですが、こちらリーフレットのほうをめくっていただきまして、展示会場といたしましては白河の歴史的文化的遺産を生かしながらということで、小峰城ですとか南湖公園の翠楽苑、森林公園ですね。そういった南湖公園周辺の地区。それから、小峰城。それから、龍興寺さん。それから、町中のほうに來まして旧脇本陣の蔵座敷、図書館のリブラン、マイタウン、コミネス、それから藤田記念博物館さん、それからハリストス正教会さん、今井醤油店さんですね、歴史的建造物を利用したということで今井醤油店さん。それから二の丸茶屋などを利用してあります。それから、そのリーフレットの3ページのところで16番になりますけれどもアートだるまストリートということで、こちら年貢町、元町、中町、天神町、二番町、一番町までの旧奥州街道沿いを中心に、商店街のショーウィンドウに白河だるまのほうに有名な作家さん、アーティストさんに絵付けやこう何か造作物を付けていただいたアーティストだるまというものを作っていただいて、それを商店のショーウィンドウのほうに飾っていただくという展示をしております。そちらのアートだるまのほうは、こうちょっと場所離れてしまう南湖地区だったり離れてしまう所はあるんです

が、アートだるまとしては全部で28体ほどの展示をいただいているところですが、2年前の前回は元町地区だけだったんですが、今回は年貢町から元町、中町、天神町、二番町、一番町ということで、範囲もかなり広がって、参加いただいているアーティストも前回約20名だったところ、今回は倍の40名ということで、だいぶ規模のほうも広がってまいりました。それから、イベントといたしまして同じ3ページの下のほうになりますけれども、今回このビエンナーレの一環としまして、イベントとしましては、これは9月4日だったんですがイベントということで、小松美羽さんという現代アーティストの小松美羽さんが南湖の芝生公園でライブペイント。実際その場で絵を描くという大きなキャンバスに、その場でインスピレーションを得たもので絵を描くというライブペイントをやったんですが、それは9月4日に終わってしまったんですが、その実際書いた作品は南湖の翠楽苑のほうに今展示しております。ですので、是非そちらのほうを絵の作品と一緒にその時着ていた袴ですね。それも一緒に展示しておりますので、是非ご覧になっていただきたいと思います。続きまして、イベントといたしましては今度9月17日に「EMANON」のほうで大橋香奈さん、水野大二郎さんのワークショップがございまして、それから9月18日の萩原朔美さんの講演会なんですが、こちら今日、チラシで緑色のチラシのほう持ってまいりました。緑のほうのチラシご覧いただきたいんですが、萩原朔美さんは今、前橋文学館の館長もされていまして、映像作家、それからご自身俳優だったという経歴をお持ちの方で、「天井桟敷」なんていう劇団を立ち上げを行ったり、ご自身俳優をされたりという様々な経歴を持っていらっしゃる方です。萩原朔美さんなんですが、おじいさんが詩人の萩原朔太郎さんなんですが白河市にゆかりがあるということで、萩原朔太郎さんの奥さんが白河出身というそういったご縁がございまして、今回9月18日に「りぶらん」で1時から講演をいただくことになっております。こちらのほうも「萩原朔太郎と旅」ということで、白河東北にゆかりがあるお話を聞けると思いますので、こちらのほう

も参加いただける方は是非参加いただきたいと思えます。こちら講演会になっているんですが、同じ「りぶらん」で萩原朔美さんご自身の撮った写真、映像も展示しておりますので、そちらのほうも是非お楽しみいただきたいと思えます。それから、もう一つイベントとしまして9月19日になりますが、もう一つのチラシを持ってまいりましたが、アニメーション上映会です。こちらは「アニメーションmeets白河」というイベント名になっておりますが、伊藤有壺さんというアーティスト、映像のプロデュースをされるアニメーションプロデューサーの伊藤有壺さんなんですが、伊藤有壺さんの代表作といたしましては、NHKのアニメ番組で「ニャッキ」という、お子さんが小さい方いらっしゃるわかつたりするとわかつたりするんですが、「ニャッキ」を作った方。それから、ミスタードーナツのポンデライオンをデザインされたという有名な方でいらっしゃいます。その伊藤有壺さんがご自身の映像作品を上映するのがありますが、この芸術祭の一環で伊藤有壺さんが高校生、白河高校と白河旭高校の美術部員を対象にワークショップを行いました。美術部員を対象にコマ撮りでそのアニメを作ってまして、そのアニメーションを実際高校生が作ったものもその成果品を9月19日に成果発表ということで初披露いたしますので、是非高校生がその指導を受けて作った映像も見ていただきたいと思えます。その高校生が作った映像は白河だるまを使って高校生の視点で白河の魅力をPRするという内容で作っておりますので、高校生から見た白河市の魅力というのも楽しめると思えますので、こちらのほうもまだ参加者余裕がありますので、是非ご参加いただきたいと思えます。それから尚、お知り合いの方、それからご家族の方にも声をかけていただきまして、多くの方に参加いただけるようお願いいたします。それでは、リーフレットのほうの次のページ、4ページ5ページを開いていただきますと、今展示している会場の地図になっております。それから、次のページですね。6ページ7ページをご覧いただくと、今回作品を出品、展示されている方のアーティストの一覧表が載っていますが、先程申しあげたとおり前回20名くらいでしたのが今回40名ということで、作家さんもほとんどの方が世界的に活躍されていらっしゃる方ですので、どの方の作品がどこというのは、このパンフレットで前のページと見合わせながらですね、是非足を運んでいただきたいと思えます。展示の数も多いですし、範囲も前回は小峰城、それから町中だけだったんですが、今回、南湖公園の周辺まで範囲も広がっておりますので、こうゆっくりじっくり白河の町並みを楽しみながら是非鑑賞していただきたいと思っております。この芸術祭については、本当にこちらリーフレットとか口で説明するよりも、実際にまず歩いて見ていただくことで、白河の町の中にこんなお店があったんだとか、こんな裏口があったんだとか、そういったも



のを改めて発見できる機会にもなっているかと思いません。そういったことで、この芸術祭なんですけれども芸術祭は現代アート作品を鑑賞していただくという、現代アート作品に触れていただくという機会を提供していることはもちろんなんです、その他に今ほど言いましたその新たな例えば白河だるま、ちょっと話が反れてしまうかもしれませんが狛犬。狛犬をモチーフにした作品などあるので狛犬ですとか、今回びゃっこい、表郷にあるびゃっこいなどに焦点をあてた写真を出していらっしゃる方もいたり、そういった今まで身近にありながらちょっと気付かなかったという地域資源を再発見するという機会にもなっています。それから、その町の中を歩いていただいたり、他の白河以外の方が白河に来るということで、地域の活性化に繋がられる事業だと考えています。それから、小学生や中学生や高校生を対象にワークショップも行っているんですが、そういった若い人たちに若い頃から現代アート作品、芸術家に触れて繋がっていただくことで、将来的な町作りの担い手を育成していくということも効果がある事業だと考えています。ちょっと話が派生してしまうんですが今回、その前回芸術祭をやった関係で小松美羽さんというその芸術家との繋がりができたことによって、狛犬巡りというパンフレットを作りまして、小松美羽さんが実際白河に来て狛犬を紹介するというこちらの狛犬巡りのパンフレットを作ったりということで、この芸術祭を通して、新たなアーティストの方の繋がりを通して、地域の魅力を発信できるという効果も出ております。それから、今回はこちらの芸術祭のオリジナルグッズ、南湖にありますいかりやさんの所で例えば盃のセットとか、わたくし共のほうでグッズを作ったりということで、新たな経済的な効果も派生しているというところで、今後例えば、各商店さんのほうでオリジナルの「風月の芸術祭」を活用していただいてオリジナルのグッズを作っていただくとか、オリジナルのメニューを作っていただくとか、そういったことで地域の活性化に繋がりを、他の地域から白河のほうに足を運んでいけるような芸術祭になっていけるといいと思っております。この芸術祭を通して白河市の魅力が高まって、ますます白河市の魅力を発信出来たらいいと思っております。時間も大体このくらいかと思いますが、何回も申し上げますが実際に足を運んでいただいて見ていただくことが、よりこの芸術祭の魅力伝わるかと思っておりますので時間がある時には、町の中、それから南湖、小峰城のほうに足を運んでいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。そして、お知り合いの方には是非情報を繋いでいただきまして、もっともっと多くの方に来ていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。本日はお時間いただきまして、ありがとうございました。

#### 藤田龍文委員長

どうもありがとうございました。せっかく来てらっしゃるので、何か聞きたいこと等があれば、挙手を。ないようなので、私のほうから少しちょっと。町中を回遊してみてもお勧めはやっぱり地図のなかで13番、ここは相当いいですね。13番とあと15番ですね。やはり、ロータリー関係ですからみていただけると良いと思います。またこちらの狛犬に関しましても、当クラブにも成井先生という詳しく解説していただける方もいらっしゃいますので、そういったことも含めて皆さん自分の住んでいる地域をいろいろな歴史とかそういった部分を再発見する機会を持っていただければと思います。それでは、以上を持ちましてプログラム委員会の担当の例会を終了させていただきたいと思っております。それでは、市役所の皆さんに大きな拍手で。

#### 成井正之会員



ご指名なので、狛犬の話の少しさせていただきます。私がですね、狛犬の講演やったのはおそらく7~8年前だと思うんですけど。一番最初のとっかかりは、2011年の震災の辺りにですね、白河地区のこの県南地区の狛犬が倒壊しているのを酒井俊一郎さんという前の白河ロータリーの民報社の支社長さんに聞いて、ただ白河には凄い狛犬があるんだよという話で、小冊子をいただいたんですよね。実際見に行ったら彫りは深いし、作りがいいし、他の神社で見た狛犬とはまるっきり違ったわけですね。それで大きさも白河の石、おそらく7尺とか10尺近くある石を削って作ったような大きなものだったということで。それで興味をもって写真を撮り始めました。そのために狛犬撮るために十何万のお金を出してカメラを買って写真を撮り始めたんですが、狛犬の写真はこれからが一番いいです。何故かという、今まで夏だと神社大体暗い所にあるので、カメラでいくらストロボ炊いても反射しちゃって映らないんですね。これから枝葉が落ちますから、是非冬場にかけて雪のかぶっている狛犬とかそういったものを撮って歩くと面白い写真が撮れるんじゃないかなと思います。そこからいろいろ鈴木市長にも話したりなんざりして、予算がついてこういった小冊子まで作ってしまったと。本当に嬉しい限りなんです。白河地区のこの石の文化。狛犬ばかりじゃないんですけど、神社の中で稲荷神社があるんですね。あそこにやっぱり狐さんがあって、それも素晴らしい彫り物で出来ております。この近郊に400近くありますから、是非見に行ってくださいれば楽しいことが起きるんじゃないかなと思います。これからも皆さん、興味をもって近くの神社を見たら、狛犬がいるかないのかなんていうのを見て、是非興味を持っていただければと思います。